

令和7年度 自己評価結果報告書

学校名

成田市立成田小学校

1 学校教育目標

自分の考えをもち よりよく行動し 共に学びを広げる児童の育成

2 本年度の重点化された具体的な目標

- ・「目指す児童の姿」との関連を明確にした教育活動
- ・「学びを生かし・伸ばす 能力・人間性・技能」を育む学習活動
- ・「学習の基盤」を発達段階に応じて共通実践
- ・「家庭・地域の教育力」とつながり分担と協働

3 自己評価結果

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策
教育課程の編成	目指す児童像「自己」の柱 自分で考え、粘り強く取り組み、次に向かって振り返る力を育むための教育活動を工夫している。	・授業や様々な活動の終末に、目標に対するふり返りの場面を設けるようにした。 ・自分で判断して行動できるように防災訓練を工夫した。 ・85%の保護者から「そう思う」「どちらかという」とそう思う」という回答を得た。 ・左記項目に係る目指す児童像に向かって成長しているかという設問に、89%の保護者から「そう思う」「どちらかという」とそう思う」という回答を得た。	A	・行事等の目的について、学校教育目標のどの部分に関わるものか職員間での理解がより深まるように提案の示し方の統一を図り、一層目指す児童像を意識した教育活動が展開できるようにする。 ・「伝統」の柱に対しては他より評価が低い。行事や委員会活動において、活動の意義を考えさせる時間を大切にしたり、学年を越えた交流を充実させたりして取り組みを受け継ぎ発展させていくとする児童の育成に努める。
	目指す児童像「自他」の柱 違いを理解し、互いを大切にし、心と言葉で関わり合う力を育むための教育活動を工夫している。	・人権週間では、道徳の時間にすべての児童が尊重される存在であるという基本原則を、発達段階に応じた具体的な事例とともに扱った。 ・83%の保護者から「そう思う」「どちらかという」とそう思う」という回答を得た。 ・左記項目に係る目指す児童像に向かって成長しているかという設問に、86%の保護者から「そう思う」「どちらかという」とそう思う」という回答を得た。	A	
	目指す児童像「公共」の柱 自分の持ち味を発揮し、友達のよさを活かし、共に学校をつくる力を育むための教育活動を工夫している。	・年度初めに学級目標をクラスで考え、協力してクラスづくりに関わろうという思いをもてるようにした。 ・校外学習等の場面では、一人一人の持ち味が生きようグループ編成を工夫した。 ・85%の保護者から「そう思う」「どちらかという」とそう思う」という回答を得た。 ・左記項目に係る目指す児童像に向かって成長しているかという設問に、88%の保護者から「そう思う」「どちらかという」とそう思う」という回答を得た。	A	
	目指す児童像「伝統」の柱 受け継がれてきたもののよさを見出し、よりよく次に引き継ぐ力を育むための教育活動を工夫している。	・1・6年生、隣接学年を中心とした学年間交流の機会を設け、学んだことを伝えることの意味を感じられるように工夫した。 ・78%の保護者から「そう思う」「どちらかという」とそう思う」という回答を得た。 ・左記項目に係る目指す児童像に向かって成長しているかという設問に、73%の保護者から「そう思う」「どちらかという」とそう思う」という回答を得た。	B	
家庭・地域との連携	学校は、教育方針を適切に伝えている。	・校長による学校教育目標の説明を動画にまとめ、年度始めの保護者会の際に資料を示しながら説明する時間を設けた。 ・82%の保護者から「そう思う」「どちらかという」とそう思う」という回答を得た。	A	・既存の行事や体験学習だけでなく、目的ベースで地域資源を活用した学習を構想し、地域コーディネーターの力により連携して体験学習を設定できるようにする。
	学校と保護者と地域は、行事など様々な活動を通して、協力・連携している。	・成小フェスティバル(バザー)や運動会、環境美化作業などで、連携、協力して活動を進めた。 ・88%の保護者から「そう思う」「どちらかという」とそう思う」という回答を得た。	A	
	学校は、地域人材やボランティアを活用した体験的な学習を行っている。	・キャリアトーク、昔遊びなどの学習機会を設け、身近な人と関わりながら体験的に学習を深められるようにした。 ・74%の保護者から「そう思う」「どちらかという」とそう思う」という回答を得た。	B	
環境整備	学校の校舎内外の施設や環境は、安全に保たれ、よく整備されている。	・R8.10～校舎建て替え予定。 ・毎月、安全点検を実施し、修理の必要な箇所は、適宜修繕で対応している。 ・61%の保護者から「そう思う」「どちらかという」とそう思う」という回答を得た。	B	・新校舎建築事業が進む見込みである。大きな修繕は望めない中で、日常の安全点検や清掃を丁寧に、現有的施設・設備を安全で衛生的な状態で維持できるように努める。
	学校は、タブレットや大型モニターなどのICT機器、実験、実習、運動などの設備や備品の整備に努めている。	・定期的に備品の整備状況を確認し、各学年や担当教科等から要望を集約して必要な用具や備品を計画的に購入・更新した。 ・87%の保護者から「そう思う」「どちらかという」とそう思う」という回答を得た。	A	
家庭・地域	家庭で児童に対して「大切な存在」であることを言葉や態度で伝えている。	・97%の保護者から「そう思う」「どちらかという」とそう思う」という回答を得た。	A	・家庭が主として担う教育力は発揮されているという自己評価である。より、地域の一人としての意識を高め、地域資源
	児童が社会の一員として適切に行動できるよう、家庭内でも守るべきルールやマナーを教えている。	・98%の保護者から「そう思う」「どちらかという」とそう思う」という回答を得た。	A	

の 教 育 力	児童が心身ともに健康に成長できるよう、早寝早起きや規則正しい食事の習慣を家庭で確立するよう取り組んでいる。	・92%の保護者から「そう思う」「どちらか」というと「そう思う」という回答を得た。	A	と関係する地域資源を活用した学習を充実させたり、地域のイベントを学校から発信したりできるようにする。
	児童は地域の行事や活動に、参加したり協力したりしている。	・75%の保護者から「そう思う」「どちらか」というと「そう思う」という回答を得た。	B	

4 自己評価の結果の分析

今年度、目指す児童像を4つの柱で捉えた。「自己」「自他」「公共」3つの柱では教育課程の編成において、実態・ねらい・活動が整合し、成果を上げている様子がうかがえる。

一方で、「伝統」の柱では、地域の物的・人的資源をより有効に活用し、時代を超えて脈々とつながっていくもののよさを味わい、そこに関わっていこうとする児童が育まれるような教育課程の編成を進めていくという部分でさらに伸びしろがあることがわかった。

これまで実施してきたアンケートや年度始めの学校経営説明をとおして、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を意識して、他に置き換えられない場面で児童の学びを支えていこうとする意識が着実に積み上がっている。このような家庭・地域と連携を深めることで、体験的に学べるようにしていきたい。

また、情報技術の進展に伴う新しい教育への変化、学校の老朽化への対応、校舎の建替工事に係る施設設備利用の制限などの課題に対して、学校ではカリキュラムだけでなく、学びを促進する環境整備にさらに意識を向けていく必要性が見えてきた。

これらのことを次年度の教育課程編成に生かし、取り組んだことに対する評価が収集できるような質問項目の検討も合わせて進めながら、よりよい学校づくりを絶え間なく進めていきたい。